

5 耐震性防火水槽行政区別整備水準および整備率

令和5年3月31日現在

行政区別	整備水準 (m ³)	整備水量 (m ³)	整備率
鶴見	11,440	8,440	73.8%
神奈川	8,680	7,840	90.3%
西	2,920	2,920	100.0%
中	5,760	5,160	89.6%
南	7,640	7,000	91.6%
港南	7,360	6,120	83.2%
保土ヶ谷	9,440	7,900	83.7%
旭	8,680	7,360	84.8%
磯子	6,440	5,720	88.8%
金沢	9,720	8,160	84.0%
港北	12,440	9,240	74.3%
緑	4,240	3,800	89.6%
青葉	2,040	1,880	92.2%
都筑	2,040	1,520	74.5%
戸塚	11,080	9,841	88.8%
栄	4,360	3,700	84.9%
泉	6,720	5,620	83.6%
瀬谷	5,160	4,580	88.8%
計	126,160	106,801	84.7%

※市内を500mのメッシュに区分しメッシュごとの延焼危険度に応じて整備水準を定め整備しています。